

新型コロナワクチンの状況と高齢者の活動支援について



国立感染症研究所感染症疫学センター 菅原 民枝 大日 康史

■日本でも新型コロナワクチンの接種が開始

「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針（ワクチン部分抜粋）」というのが2021年2月12日に発表されました。内容は、

1. 新型コロナウイルス感染症に係るワクチンの接種目的は、新型コロナウイルス感染症の発症を予防し、死亡者や重症者の発生をできる限り減らすことであること。
2. 関係機関と連携し、迅速にワクチンの開発等を進めるとともに、承認申請された際には審査を行った上で、安全性及び有効性を確認し、できるだけ早期の実用化、国民への供給を目指すこと。
3. 予防接種については、予防接種法及び検疫法の一部を改正する法律（令和2年法律第75号）による改正後の予防接種法に基づく臨時接種の特例として、厚生労働大臣の指示のもと、都道府県の協力により市町村において実施すること。
4. 予防接種の実施体制や接種順位等については、令和3年2月9日の「ワクチン接種について」を踏まえ接種を円滑かつ効率的に実施する観点に立って行うこと。
5. 予防接種により健康被害が生じた場合の救済措置や副反応疑い報告等については、予防接種法の現行の規定を適用し適切に実施すること。
6. 予防接種は最終的には個人の判断で接種されるものであることから、予防接種に当たっては、リスクとベネフィットを総合的に勘案し接種の判断ができる情報を提供することが必要であること。

こうした基本的対処方針に基づいて、日本でも

新型コロナワクチンの接種が開始されました。この基本的対処方針が大事なものは、一人ひとりが、予防接種を理解して、自らの意思で接種の判断をするためです。

2月14日にファイザー社の新型コロナウイルス感染症のワクチンが日本で薬事承認され、17日から医療従事者から先行してワクチン接種が開始されました。現在、順次医療従事者が接種をしているところです（2021年3月18日現在）。

■「予防接種」を理解するとは？

「予防接種」や「ワクチン」という言葉を、これまでも聞いたことがあると思います。生後数ヶ月後から子どもたちは予防接種をし、感染症に対する免疫を強くしています。感染症は、ウイルスや細菌などの病原体によってひきおこされます。感染症にかかると、その病原体に対する免疫ができ、免疫ができることで、その感染症に再びかかりにくくなります。また、かかったとしても症状が弱くなります。こうした感染症の病気に対する免疫を強くするために、ワクチンを接種します。

例えば水ぼうそうのワクチンは平成14年10月1日から定期接種になりましたが、病原性を弱めた病原体から作られたワクチン（これを生ワクチンといいます）です。同じようなワクチンに、麻しんと風しんワクチン（これを麻しん風しん混合ワクチンといいます）もあります。これらは、一歳と小学校に入学する前に2回接種するスケジュールになっています。生ワクチン以外にも、不

活化ワクチンといって感染力を弱めた病原体から作られたワクチンもあり、代表的なのはインフルエンザワクチンや、4種混合ワクチンであるDPT-IPV（ジフテリア、百日せき、破傷風、不活化ポリオ）です。

新型コロナワクチンは、メッセンジャーRNAワクチンで、ウイルスを構成する遺伝情報から免疫を得るというものです。メッセンジャーRNAワクチンは今回初めて広く接種されます。ワクチンと一言でいっても、複数の種類があります。

今回の新型コロナワクチンは、世界各国で研究開発が行われました。一般的には、基礎研究から臨床試験を経て、数年あるいはもっと長い開発時間がかかりますが、日本国内においても、諸外国においても、早期の実用化を目指して開発されてきました。日本でも国立感染症研究所を含めて主に5つのワクチンが研究開発中です。

現在、日本に輸入されているファイザー社、今後検討されているモデルナ社、アストラゼネカ社のワクチンは、ワクチンを投与した人の方が、投与していない人よりも、新型コロナウイルス感染症に発症した人が少なかったとの結果が発表されています。効果はどれくらい持続するの？と思われるかもしれませんが、接種が開始されてから、期間が短いこともあり、まだ明らかにはなっていません。

また、先月号（2021年3月号）でお伝えした変異株にも効果があるの？と思われるかもしれませんが、ファイザー社のワクチンでは変異株に対しても抗体が作られたという結果も発表されています。今後も、次々に諸外国からも研究発表がされていくので、こうした新しい情報を知っておきましょう。

新型コロナワクチンについて、たくさんの情報があふれています。まだわかっていないことも多くありますし、まだ決まっていないこともあります。新しい情報が追加されているので、国からの

情報を入手しましょう。

■どこに情報があるの？

厚生労働省が「新型コロナワクチンについて」というホームページで、情報発信をしています。
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_00184.html

中でも、しっかり読んでいただきたい情報はワクチンの有効性・安全性についてです。先日も接種後にアナフィラキシーショックのあった方の報告がありました。これは、短時間でおこるアレルギー反応のことで、「じんま疹などの皮膚症状、腹痛や嘔吐などの消化器症状、息苦しさなどの呼吸器症状が急におこります。血圧低下や意識レベルの低下（呼びかけに反応しない）を伴う場合」をアナフィラキシーショックと呼んでいます。予防接種後に、息苦しさなどの呼吸器症状がみられれば、接種会場や医療機関で、治療が行われます。ですので、接種後に万が一アナフィラキシーショックが起こっても、すぐに対応が可能なよう、予防接種の接種会場や医療機関では、医薬品などの準備がされていますし、接種後には様子を見る時間が必要とされています。

「いつどこで接種ができるの？」

それぞれの市町村からの接種の時期が近くなったら、ご案内あるいは接種券が送られてきますので、それを待つこととなります。接種は市町村単位で行われる予定ですので、実際の接種の日程や会場等については、市町村からの情報です。

「お金はかかるの？」

新型コロナワクチンは、全額公費で受けることができるので、無料です。

「子どもは受けられるの？」

新型コロナウイルス感染症の重症化リスクの高い方から順に接種をすることになっており、医療従事者、65歳以上の高齢者、基礎疾患を有する方

や高齢者施設の職員の順での接種方針です。現在接種をしているファイザー社のワクチンは、名称は「コミナティ®」とありますが、この接種対象は16歳以上で承認を受けていますので、16歳に満たない方は、ワクチンの接種の対象にはなりません。16歳未満の人に対する有効性・安全性はまだ明らかになっていないためです。アストラゼネカ社、モデルナ社の新型コロナワクチンでは、18歳以上に対して臨床試験が行われていますので、今後も接種対象の年齢が決まっていきます。一方で、ファイザー社、モデルナ社の新型コロナワクチンの12歳以上の小児を対象とした臨床試験が海外で開始されているとのことですので、こうした結果を待つ必要があります。いずれにせよ、接種の対象者は、さまざまなデータが明らかになっていくことで、対象年齢はかわっていく可能性もあります。

■新しい高齢者の方とのふれあい交流行事

例年、高齢者施設にいらっしゃる方々との交流行事をされてきた保育園も多いと思います。大変に微笑ましい時間で、ご高齢の方にとっても、子どもにとっても、双方にとって楽しい時間であるにちがひありません。しかし昨年より、こうした交流行事はすべて中止にされてきたと思います。子どもが高齢の方に感染させるかどうか、科学的なデータはありませんし、逆に高齢の方が子どもに感染させるかどうかもわかりません。しかし、その病原体が新型コロナウイルスに限りませんが、高齢者施設に万が一病原体を持ち込んでしまうようなことになれば、高齢者が感染することになり、その後、体調が悪くなったり、重症化になったりすると、入院が必要になるかもしれません。そうしたことは防がなければなりません。

先のワクチンの優先的な対象者になっているように、新型コロナウイルス感染症は、高齢者はハイリスクとされ、重症者あるいは死亡者が多くな

っています。そのため、高齢者は感染予防対策をしなければならないのですが、外出もせず、社会生活も制限され、自宅等で隔離された状況はいつまで続くと考えればよいのでしょうか。何度もお伝えしてきていますが、数週間、数か月で完全に流行が収まるといったことは期待できないでしょう。ワクチン接種の効果を期待したいところですが、すべての高齢の方が接種を終えるまでには、時間がかかるかもしれません。もちろん、それぞれの市町村で現在担当者が一生懸命に準備をしてくださっているので、感謝をしながら備えて待つという状況となります。

では、交流行事、いつまで延期にすればよいのでしょうか？高齢者がハイリスクだと分かっているので、これまでのようにたくさん的人数で訪問をし、歌を歌ったり、一緒に顔を寄せあつたりのイベントは、現在のところは難しい状況です。これまでと同じ方式では、延期あるいは中止にせざるを得ません。そこで、新しい方法を検討してみませんか？

新型コロナウイルス感染症の流行に伴って、ソーシャルディスタンスという言葉もすっかり定着しました。このソーシャルディスタンスというのは、距離を保つことですが、この距離とは飛沫が飛び交わない距離であって、心の距離までも遠ざけることなく、交流をやめてしまうということではないのです。

新しい交流方法として、オンライン（リモート）があります。インターネットを活用しての中継です。子どもたちは保育園にいます。そこで、高齢者施設の皆さんあるいは、地域にお住いのご高齢の方々に接続していただいて、そこで挨拶をしたり、歌ったり、楽しいかわいいメッセージをお届けすることができます。訪問ではないので、お互いの都合のよいときで、季節に合わせて短い時間でも双方で接続してみるのはいかがでしょうか。ご高齢の方も、スマートフォンの画面を通して、

あるいはパソコンのモニターやスクリーンを通して、その中継を見ることができます。中継は時間が決まっているので、その時間を楽しみにしていただくことができますし、録画であれば好きな時間にみていただくことができます。例年のように、すぐそばにいることはできませんが、その雰囲気は伝わります。逆に、ご高齢の方々の様子も、中継であればカメラやマイクに向かっていただければ保育園に届けることが可能です。双方向は楽しいですね。どんな反応があるのか、子どもは楽しみにできます。

■ご高齢者のオンラインの挑戦を促す保育園に

本誌は、保育園・こども園の関係者の皆さまが読者となっていますので、現在流行している新型コロナウイルス感染症については、まずは子どもについての情報を知りたいと思われると思います。現在のところ、子ども、特に10歳未満はほかの年齢層に比べて感染者は少なく、また有症者も少ない状況です。保護者の濃厚接触者となって検査をしたところ陽性であったけれども、無症状といったことが多いです。

一方で、保育園の職員の中には、ご高齢の方もいらっしゃると思います。より一層の感染症対策をしながら、しかしながら子どもとの生活の時間を大切にさせていただきたいと思っております。

昨年は高齢者の方を対象としたイベントやセミナーが中止になりました。致し方ないこととして、半ばあきらめて残念な気持ちを抑えていらっしゃる方も多かったと思います。しかし、流行が続く、このあともこれまでとまったく同じことができないのであれば、新しいことに挑戦しようと思われた方も多いたと思います。こうした新しいことに挑戦をされた方々についての調査がありましたので、ご紹介します。

45歳以上の方が集う「リビングアカデミー」¹⁾という大人のための学校で、2020年11月に『新

型コロナウイルス感染症の流行を考える』講座がありました。

1) 自由学園

<https://www.jiyu.ac.jp/la/blog/news/1925>

この講座では、講師も生徒もオンラインにて行うことを初めて試みました。事後調査では、オンライン接続をされた参加者のうち、今回の講座で初めての接続であったが半数以上で、自分で設定をされた方が3分の1、周りのお子さんやお孫さんになどに手伝っていただいて設定できた方が3分の1いらっしゃいました。この方々の年齢は、60歳、70歳、80歳代の方で、ほとんどが女性でした。

こうした取り組みについて、以前から、インターネットは使い慣れていたので不安はなかったという方もいらっしゃいましたが、今回お勧めがあったからやってみようと思ったという方や、以前からオンラインでの聴講はやってみたいと思っていた方もいらっしゃいました。機会があればやってみよう！と思う方がいらっしゃるようになりました。また、通学時間に120分かかる方もいらっしゃいましたが、15分という方もいらっしゃいました。オンラインの講座や研修等の参加の利点では、一般的にその場所に行く時間がかからないことが挙げられていますが、今回、遠方だからという理由ではなかったことがわかりました。新しいことに挑戦してみよう！と思われたのではないかと思います。

子どもが10人十色であるように、ご高齢の方も、いろんな方がいらっしゃいます。いつ夜が明けるのかわからないような不安を抱えておられる毎日であっても、できることをしていきたいという方は常にどの年代にもいらっしゃると思います。そうした方々のためにも、保育園の子どものためにも、世代を越えての交流はさせていただきたいと思います。

中には、新しい方法は、どうせだめだ、無理だ

と思われる方もいらっしゃるかもしれません。しかし、やってみよう！と欲している方はきつといます。新しいことに挑戦していくことは、楽しいことだからです。そうしたチャンスだと思うのです。先の講座に参加された方の自由記載に、「ハイレベル（講師もりモート）な挑戦を成功されたこと素晴らしい。私も自分のスマホで、自分でできたことは嬉しくこの波に乗り可能性が広がったような気分。」（70歳女性）とありました。新しいことへの挑戦が、いまの不安だらけの感染症流行の際にも、明るい兆しとなった

ら、うれしいことだと思いませんか？

こうした取り組みを保育園から高齢者施設に提案をしていただいたり、地域の高齢の方々にお声をかけていただいたりするような、そうした新しい取り組みを保育園から発信してみませんか？もちろん、遠方に住む子どもの祖父母も参加することができ、お孫さんの元気な姿を見ていただくこともできると思います。一石二鳥どころか、三鳥にも四鳥にもなります。地域にも働きかけつつある保育園、いかがでしょうか。

厚生労働省より保育所等への 布製マスク配布希望の申出についてのお知らせ

現在、厚生労働省では保育所等の希望する施設に対して、布製マスクの配布を実施しているところです。現在のマスク需給状況等を踏まえ、**すでに配布を行った施設も含め、改めて希望する施設に配布すること**としました。マスクを希望される施設は、下記の通りお手続きください。

【申出方法・配布の流れ】

- ・厚生労働省ホームページに、受付専用のメールアドレス及び電話番号や手続きの詳細の記載がありますので、その通りに申込んでください。
- ・申出から配布まで、おおむね3週間程度を要する見込みです。
- ・原則として100枚単位での配布です。
- ・配布するマスクは大人用のサイズです。



https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/mask_haifukibou.html